

令和2年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園 理事長
木の実幼稚園 園長 今川公平

○本園の教育目標

- 生活指導上の基本目標
 - あいさつが出来る ・感謝の気持ちが持てる ・けじめがつけられる ・自分のことは自分で出来る
 - 友達のことを思いやる事が出来る
- 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。
 - 造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜ぶ心を育てる。
- 自分で考え、行動できる子どもを育てる。
 - いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。
- 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びが工夫できる子に育てる。
- いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

A、本年度達成することが必要と思われる評価項目

項目	内容
1	コロナ禍にあつての教職員研修のあり方
2	スマホ時代に対応したホームページのリニューアル、配布文書のペーパーレス化
3	給食のメニューの質・量の改善・什器備品の更新
4	保育室の家具の更新・木質化を進める。
5	教職員の残業・諸手当のあり方
6	新型コロナウイルス感染症予防対策の構築・年間行事の再構築
7	園経営における財務体質の健全化

B, 評価項目の設定理由

項目	内容
1	木の実幼稚園のプロジェクト型保育は、導入後15年が経過し、すっかり内容と成果が定着しつつある。昨今では、その独自性から高い外部評価と見学依頼も多くいただいているが、今後も一層の質向上が求められる。コロナ禍の現状にあっては、よりよい保育を目指しての園内での合同研修・外部への研修参加の機会がどうしても限定され、また外部への発信もオンライン等の工夫が必要である。オンライン等を活かした新しい研修のあり方や保育実践記録のデータ化が求められる。
2	保護者の木の実の保育に対する理解と協力には、丁寧な情報発信が欠かせないが、紙媒体だけでは、どうしてもコストと教員の負担が大きくなり、また保護者にあっても紛失等の事態を招くことになりがちである。その為には、スマホ時代に見合う園からの情報発信やお知らせの新しい在り方が必要である。
3	給食のメニューについては、昨年度から進めている「国内指定農園からの野菜」「天然だし」「手作りソーセージ」等の質の改善に合わせて、より充実したメニュー構成が一層必要である。また、設備面では冷凍保管庫・フライヤー等の入れ替えが必要である。
4	2年前より、コーナー活動で使用しているスチール脚の椅子を順次木質化するプロジェクトを進めているが、今年度中には全ての椅子の木質化を終え、また園児の着座姿勢の指導に新しいタイプの椅子の検討と導入を加速する。
5	働き方改革三年目の本年度は、働き方そのものの工夫によって、増えるばかりの残業を一層抑制し、さらに早出手当等の見直し等、実態に合わせた諸手当の工夫が望ましい。
6	新型コロナウイルス感染症予防対策については、時々最新の医学的知見を収集し、文部科学省・大阪府等からの行政通知の内容を精査し、園内での体制の更新と保護者への情報発信が必要である。また、年間行事のあり方、内容を柔軟に決定する工夫が求められる。
7	2年連続の経常収支の赤字は、今後の教職員の処遇改善、施設改善が行えなくなり、ひいては教育の質の低下につながるため、なんとしても今年度中に改善しなければならない。

C. 評価項目ごとの具体的目標と取り組み方

項目	内容
1	<p>外部での研修会がほとんど中止となり、あってもオンライン研修のみとなっている。また緊急事態宣言による保育日数の減少から、園内研修の機会も限られているが、6月の保育環境スクール研修会では日本全国の保育現場や研究者と Zoom による研修会を本園で行ったが大成功であった。今後も、園内でのプロジェクト保育の実践記録を各担任がパワーポイントによってデータ化し、記録を蓄積する事で園内外の研修会につなげ、オンラインを積極的に活用して教職員、保護者とも共有できるノウハウを積み上げていきたい。</p>
2	<p>昨年度からスマホ対応のホームページ作成に着手し、従来の紙媒体での園からのお知らせを全て本年度からホームページに掲載し、保護者が常時手元で確認できるようにする。園だよりや給食献立等、重要なお知らせのみペーパーで配布するものとする。</p>
3	<p>本年度から、献立を従来の4品構成から5品構成へグレードアップする。ただし、年齢や個別の喫食量に十分配慮し、アレルギーへの対応も万全を期する様、給食会議、アレルギー対応会議等で調理室とも十分な情報交換と検討を行うものとする。</p>
4	<p>古くから使用していた脚がスチールの椅子はコーナー活動で使用していたが、安全性を高めるため今年度より廃止し、新しいデザインの木製椅子に切り替える。また昨今の園児の着座姿勢の悪化は背筋力の低下も原因と考えられるため、自然と背筋が伸びる背もたれのない、新しいデザインの椅子を年長児クラス全てに一学期から導入する。</p>
5	<p>働き方改革は3年目を迎えるが、処遇改善の為の残業時間の抑制が一層望まれる。従来の残業代完全支給の方針は変えず、事前申請制度、ノー残業デーの導入等によって一層の抑制を実施する。また早出手当については増額するなど、勤務実態に即した手当の見直しも行う。</p>
6	<p>特定の情報源だけではなく、広く医学的知見について情報を集め、また行政からの膨大な通知も精査し、他の市町村の状況も調べ、園での対応方針を時期に合わせて決定する。また人が集まる諸行事については、最大限感染予防対策を行ったうえで、何が可能か、子どもにとって最善の視点で内容を決定する。</p>
7	<p>教育上最優先で取り組むべきことは予算を度外視して行ってきたが、2年連続の経常収支赤字は今後の教育に深刻な影響を与える為、人件費・管理費等の見直し・抑制に努めながら、保育料無償化の制度を活かし、一定の保護者負担の理解を得て、本年度黒字化を目指す。</p>

◎以上の本年度の取り組みについての最終評価は令和2年度末、令和3年3月に実施する。